「志成」＝志有る者、事ついに成る＝

PTAだより

2021. 3. 1
Vol. 107

本校
ホームページ

滋賀県立河瀬中学校・高等学校ＰＴＡ会報

卒業によせて

PTA会長　**大林　博幸**

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、新学期早々に臨時休校となり、学校再開後にあっても、学校行事や部活動等の課外活動の多くが中止や規模縮小となるなど、皆さんが最終学年として思い望まれた学校生活とはかなり乖離した一年だったと思われます。振り返れば、心残りなことが多数あったかもしれませんが、先を見ればコロナ禍がもたらす社会構造の変化、様々な場面でのオンライン化に対して、この一年での経験が役立つ日がきっと訪れることと思います。この苦難を乗り越え卒業される皆さんには、時代の先駆者となり、アフターコロナの社会を牽引していく存在となってくれることを期待しています。

贈る言葉

校　長　**田中　浩一**

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様からいただきました、これまでのご支援・ご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、ワクチン接種によるコロナ過の収束が待ち望まれていますが、先行きはまだ少し不透明な状況のようです。卒業生の皆さんにとっての不自由な日々も、まだしばらくは続くと思われますが、どんな物事にも、始まりがあれば必ず終わりがあります。明けない夜はありません。この先に待っている、制約のない日常の生活の中で、自ら選択した進路先で、自分自身の夢の実現に向かって大きく羽ばたくことができるよう、今しばらくエネルギーの充電に努めてください。

不自由な日々に耐えた分だけ、皆さんは一回りも二回りも強くなっているはずです。そのような皆さんの前途が、よりいっそう素晴らしいものになることを心から願っています。

感謝の気持ちを忘れずに

教育振興会副会長　**本田　真司**

卒業生の皆さん､ご卒業おめでとうございます。

皆さんはSNSを使いこなして情報収集をし、環境問題や社会的な課題への関心が高いデジタルネイティブ世代と言われます。最近の社会においては、若くて優秀な人材が増え、年齢と成果がイコールにならない時代になってきています。今後、ますます割合が増えていくこの世代の能力を今、社会が求めています。

今、自分にできることは何か。

先行きの不透明な時代の中で、どうやって前を向き、自らの歩みを進めるべきか。自然災害時やコロナ禍の中で、他者のために懸命に尽くす人たちがいます。特に患者に向き合う医療従事者の姿や責任感は、皆さんの生き方を考えるきっかけになるのではないでしょうか。

人は互いに支えられて生きている。感謝の気持ちを忘れずに。皆さんの益々のご活躍を期待しています。

ご卒業おめでとうございます

PTA副会長(中学PTA会長)　**村上　千恵**

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご家族様におかれましても、義務教育課程修了という節目の日を迎え、心よりお祝い申し上げます。

入学されてからの３年間はどうでしたか？まだ幼さが残っていた皆さんが、自ら進路を選択して河瀬中学校で学び、日ごとに自信に満ち成長していく姿に、とても頼もしく思っています。この1年は社会情勢により制限されることも多々ありましたが、その中でも状況を判断して、変化に適用しようと努力したことは、今後の人生の糧になったのではないでしょうか。どうかこれからも、この3年間で経験し得た知識を、正しく意味のあるものにしていってほしいと思います。

進級・進学され、新しい出会いや環境の変化があると思いますが、自分を信じ、自ら学ぶ積極的な姿勢で、歩んで行って下さい。応援しています！

「負けない」人生を

高校第３学年主任　**吉 田　裕**

卒業おめでとうございます。この６年間、３年間、みなさんは、学習、自主活動など「河瀬高校」という環境のなかで、さまざまなことに取り組んできました。ときに喜び、ときに悩み、さらには反発しながら、新たな環境に飛翔する力を身に着けたことでしょう。みなさんを待ち受けているのは、より自らの判断が求められる世界です。どんな困難に出会っても自らに責任を問いながら前に進まなければなりません。

ミュージカル「回転木馬」のラストシーンは父親を亡くした娘の卒業式の場面です。校長先生が「You’ll Never Walk Alone」という歌を感動的に歌い上げます。

When you walk through a storm.　Hold your head up high. And don’t be afraid of the dark. …　You’ll never walk alone.

「あなたは一人じゃない」負けそうになったとき、この事を忘れないでください。

「勝つことよりも負けないことである。負けない人生は必ず勝利の人生となる」わが師から贈られた言葉をみなさんにも贈ります。

みなさんの人生が実り多きことを祈ります！

「縁」と「ことば」

中学第３学年主任　**星野　幸広**

縁（えにし）ということばがあります。「えん」または「ゆかり」のことです。「えん」とは元々は仏教に由来することばで、辞書によると、原因を助成して結果を生じさせる条件や事情のことと説明されています。そこから、①そのようになる巡り合わせ　②人と人との関わり合い　という意味を表すようになったのでしょう。

みなさんがこの河瀬中学校の生徒になったのも「縁」だし、河瀬中学・高等学校の他の生徒や先生方と出会ったのも「縁」なのです。入学してから、これまでの３年間で、うれしかったこと・悔しかったこと・悲しかったこと・楽しかったこと、さまざまな出来事があったと思います。それらすべてをひっくるめて、河瀬中学校の思い出として胸に刻み、これからも重ねてゆく「縁」を大切にしてください。

『大切な存在』

2020年同窓会幹事 3年2組　**髙橋　康輝**

私たちの学年は、これから先、一生忘れないであろう大きな変化を経験しました。新型コロナウイルスによる長期の臨時休校、それに伴う学校行事の中止などです。入学時には、このようなことが起こるとは思いもしませんでした。私の所属した部活は、最後の大会が無くなり満足のいく締めくくりも無く引退しました。全てのことが中途半端な状態で終わっていき先の見通せない日々が続き、勉強に身が入らなくなってしまうことも少なからずありました。そんな時、勉強の進み具合を教室で言い合う友達の存在、面談の中で今の自分に真剣に向き合ってくださる先生の存在が私にとってとても大切でした。これからも、周りにいる人に感謝の気持ちを忘れず、目標に向かって努力し続けたいと思います。このような過酷な環境に順応し、3年間を思い出深いものにすることができたのは、先生方をはじめ、友達の協力あってこそだったと思います。本当にありがとうございました。

河瀬での出会い

2020年同窓会幹事 3年1組　**北川　真愛**

地元の友達とも離れて不安の中で始まった河瀬での6年間は、私にとってとても充実したものになりました。特に部活動での学びが大きかったです。6年間卓球部に所属し、近畿大会出場という目標のもと、練習に励んできました。つらい時も、先生のご指導のもと仲間と共に乗り越え、やっと目標を達成できた時の喜びと感動は今でも忘れられません。最後の大会はコロナウイルスで中止となり、悔しさが残りますが、大切な仲間と過ごした卓球部での活動は私の宝物です。部活外でも大切な仲間との出会いが、私の学校生活をすばらしいものにしてくれました。つらかった受験期も仲間の存在があったからこそ乗り切れたように思います。

卒業を迎え、それぞれが自分の新たな道へ進みます。少し寂しさも感じますが、河瀬での学び、出会った人すべてへの感謝を胸に自分の道を歩んでいきます。本当にありがとうございました。

高校3年

中学3年

高校3年 1組

私が河瀬で学んだこと

菊　瑞季

河瀬で６年間過ごし学んだことは、継続の大切さです。私は受験を理由に部活を辞めようと思ったことがあります。その時、模試で結果が出せないのを部活のせいにしていないかという先生の一言で、生活を改め、部活を最後までやり遂げ、志望校にも合格することができました。これからも継続の力を信じ頑張りたいです。

河瀬高校の思い出

吉薗　遥香

あっという間に過ぎた高校生活三年間、中学生活も含むとこの六年間とても印象に残るものとなり、その中でも私は何気ない日常が一番大切であるということに気づきました。今年は特に日常とはかけ離れたような一年になりましたが、私たち河瀬高生らしい有意義なものになったと思います。この高校と仲間でしか得ることのできなかった思い出を胸に、卒業してまいります。

高校3年 2組

河瀬での３年間

船田　紘平

私は河瀬での三年間で学習や部活動を通し、多くの経験を得ることができました。部活動ではサッカー部に所属し、チームの目標に向かって仲間と共に日々の練習や試合に取り組みました。コロナウイルスの影響で３年生最後の大会がなくなってしまったときは悔しい思いをしたけれど、夏の引退試合までチーム一丸となり努力し続けたことは、継続することとやり遂げることの素晴らしさを身をもって経験することができました。また学習でも同様に、定期テストに向け努力し続けることは知識以上に私に継続することを教えてくれました。

しかし、学習と部活動を両立していくうえで度々色々な悩みを持つこともありました。その時助けになってくれたのは多くの仲間や先生方の存在が大きかったように思います。特に何でも相談できる仲間は心強いものであったし、また活力を与えてくれるものでもありました。卒業を迎える今、河瀬高校で私は多くの方に色々な場面で助けられていたんだなと思うと同時に、感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。

３年間の思い出

小椋　真奈美

私が高校生活の中で一番打ち込んだものはハンドボールでした。振り返ってみると、キャプテンという立場でチームをまとめることは本当に大変でしたが、仲間と一緒にチームの方向性について何度も話し合ったことや、試合で勝ち喜んだこと、何より仲間とたくさん笑いあった日々は本当に楽しかったです。チームが一つの目標に向かって努力しお互いに成長した結果、目標を達成することができ、私にとって最高のチームでした。部活動で偶然素晴らしい仲間に出会えたことはかけがえのない大切な思い出で、これから先もずっと大切にしていきたい仲間です。

これまで支えてくださったすべての方に感謝の気持ちを忘れず、これからは自分の夢を実現させるために一生懸命頑張りたいと思います。

高校3年 3組

河瀬高校の思い出

馬場　一綺

私はなんとなく河瀬高校に入学し、当初は将来の目標などは決まっておらず、何に興味を持っているかもわからない状態でした。ですが河瀬高校では、将来について考える機会が多く、先生方や友人と将来について話すことも多くありました。その結果、早い段階で映像制作という分野について自分は興味があると気がつき、あまり一般的ではない学部への進学を決定することができました。河瀬高校に入学したからこそできた決断だと思います。

河瀬高校の３年間

池田　彩羽

私は高校３年間、日々の授業や自宅学習に熱心に取り組んできました。定期テストでは、目標点を設定し、それらを達成できるように計画を立ててコツコツと勉強をしました。また、部活動ではハンドボール部に所属し、毎日の練習や試合を通して、多くのことを学ぶことができました。勉学と部活動の両立は、時に辛いこともありましたが、３年間努力したことは自分の自信に繋がりました。

高校3年 4組

３年間の思い出

北村　叶

河瀬高校での３年間を経て、私は人間的に成長することができました。入学当初は、勉強面や人間関係への不安が大きく、新しい環境に上手く馴染めずにいました。時には河瀬への進学を後悔することもありました。しかし、授業での協働的学習や部活動、学校行事などを通して多くの人と関わり、良好な関係を築くことの出来る友人ができました。さらに、友人たちと教え合い、励まし合うことで学業にも一層力が入り、学校生活がより充実したものとなりました。３年次では、進路決定に向けて先生方や友人の力も借りつつ、自分自身と真剣に向き合い、将来の目標を明確に持つことができました。河瀬高校で出会えた友人たち、そして私たちを手厚くご指導くださった先生方に感謝します。私は河瀬高校に進学して良かったと心から思います。

３年間を振り返って

川端　優祐

河瀬高校での３年間を思い返すと、本当にたくさんのことがあったんだと実感します。1、2年では学習と部活動の両立を目標に日々活動をしました。３年次では新型コロナウイルスの影響で部活動も十分に活動出来なかったため、悔しさが残るままの引退となりました。しかし、1、２年次の努力の経験から、悔しさをバネにして、その後の受験勉強で全力を尽くせました。そして迷いがあっても先生方からのサポートや友達からの励ましで苦しい時も乗り切ることができました。これから自分の進路へと進むこととなります。そこでも新しい壁に当たることがあると思いますが、河瀬高校で得た経験を生かし、さらに成長していきたいと思います。

高校3年 5組

「私の三年間」

堤　竜生

私は三年前、将来への期待と不安を胸に抱いて、河瀬高校に入学しました。この三年間は本当に月日が経つのが早く、多くの先生方や友達の支えがあったからこそ頑張れたのだと思います。受験では焦りや不安でとても追い込まれましたが、このままではいけないと思い無我夢中に勉強に専念しました。その結果第一志望の大学に合格出来ました。最後まで諦めなかった自分と支えてくれた周りのみんなのおかげです。感謝しています。ありがとう。

「河瀬高校で学んだこと」

村上　葵弓

私は高校生活を通して、諦めずに挑戦し続けることの大切さを学びました。私は部活動の試合でも何人もの強い相手と当たることがありました。結果はみえていても最後まで諦めず１点でも多く取ろうと試合に臨みました。その繰り返しにより成長することができたと感じています。勉強面でもこの経験が活き、成長につながったと感じています。これからもこの心を忘れずに頑張り続けたいと思います。

高校3年 6組

６年間で学んだこと

大前　太一

私は河瀬での6年間で多くの仲間に出会うことができました。私は中学・高校ともに卓球部に所属していました。部活動を続けることができたのは、卓球部の仲間や先生方の支えがあったからです。また、私は部活動を通して、仲間と目標を定めて行動することの大切さを学びました。卓球部に入部した当初は、試合に勝つことが出来ませんでした。しかし、仲間や先生方からのアドバイスにより目標を定め、課題を克服できるように練習を続けた結果、大会で勝てるようになりました。高校2年生の春季総体では、予選を勝ち上がりダブルスで近畿大会に出場することができました。このことは私にとって貴重な経験になりました。卒業後も河瀬で学んだことを活かしていきたいと思います。

河瀬で学んだこと

北村　彩菜

私は河瀬での6年間を終え、振り返ってみると本当に充実していたと実感します。入学当初には考えられなかった様々な経験をこの学校で得たことで、今まで持ち得なかった考えを知ることができたり、それらを吸収し活かすことができるようになりました。特に三年生になってからは、受験を通してたくさんのことを学びました。日々の生活で支えたくれた家族、勉強や志望校についての悩みを一緒に考えてくださった先生方、それぞれの目標に向かって一生懸命勉強している仲間たちの姿に励まされ、あきらめない強さを教わりました。

多くの方々の支えのおかげで今の私があると思います。これからも、感謝の気持ちを忘れることなく邁進します。本当にありがとうございました。

中学3年 1組

「朋有り」

担任　藤田　直樹

３年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。君たちと一緒に河瀬中学校へやってきて３年、初めての中学校での教員生活、新鮮な気持ちで過ごすことができました。

３年前の４月８日のことは今でも鮮明に覚えています。１組でケンちゃんが歌っていたこと、２組は「金子みすゞ」でシットリしていたという両クラスの対比…。そんな１年生の頃のエピソードを１つ。ある「道徳」の授業後の感想です。「班別でとてもレベルの高い話し合いができた。きっと地元の中学校ではできなかったのではないか。河瀬中に進学して良かった」ざっとこのような感想だったと思います。これから開かれていく未来への期待が感じられて、強く印象に残ったのを覚えています。皆さんは、これまでの３年間を共に過ごし、そしてこの先更に３年、変わらないメンバーで過ごしていきます。マンネリや物足りなさを感じることもあるかもしれません。そんな時は、この河瀬中学高等学校に進学した初心に立ち返ってみるのも良いのではないでしょうか。「朋有り遠方より来たる、亦た楽しからずや」皆さんの「朋」、あるいは皆さん自身は、何を求め「遠方より来たる」のでしょうか。勉強少々、部活動や生徒会活動は非常に活発に活動してくれた君たちにはまだまだ出し切っていないポテンシャルが秘められていると感じます。一生のうち今しかない高校生活です。皆さんがこの先の高校生活を志高く過ごしてくれることを期待しています。

中学3年 2組

「一歩ずつ前へ」

担任　大久保　穂香

ご卒業おめでとうございます。

みなさんと出会って２年。毎日の授業や休み時間、荒神祭、関西宿泊研修、修学旅行、たくさん泣いてたくさん笑ったこと…様々な出来事が思い出されます。３年生のスタートは、新型コロナウイルスによる休校から始まり、例年とは少し違う学校生活となりました。しかし、それに負けないみなさんのたくましい姿を見て、とても感動しました。自分たちに今できることは何なのかを考えながら成長していくみなさんから勇気をもらったことが何度もありました。みなさんと過ごした毎日は、私にとって宝物です。

“Q ちゃん”の愛称で親しまれたマラソンランナー、高橋尚子選手の言葉をみなさんに贈ります。

「長い階段を一気に上がろうとすると、途中でへばってしまう。でも一段ずつ確実に上がっていけば、時間はかかっても頂上まで上がることができる。」

長いなと思っていた中学校生活もいよいよ卒業を迎えます。夢はもうしっかりと心の中にありますか？「今」を大切にすることが未来を築いていくことにつながっています。まだ夢や目標が見つからない人も、今を大切に学び、行動することで、おのずと自分の求める道が開けてくるはずです。高橋選手の言葉にあるように、前を向いて自分のペースで確実に進んでいくことが大切だと思います。目の前のことに全力を尽くし、素晴らしい未来へ一歩ずつ踏み出してください。

卒業生のみなさん、楽しい日々をありがとう！ぜひ元気に新しい生活をスタートさせてください。みなさんのご活躍を心から祈っています。

福島研修

高校２年生主任　京極　文子

11月21日から２泊３日の行程で福島研修を実施しました。開館間もない東日本大震災・原子力災害伝承館をはじめ、一部帰還困難区域である国道６号を通過しながら請戸小学校・ＪＲ双葉駅周辺・富岡町のフィールドワーク・東電社員さんを始め現在復興に尽力されている方々との対話の機会も多くある、充実した行程に15人の生徒が参加しました。

東日本大震災発生時には小学２年生だった生徒達は研修前には事前学習を行い、それぞれのテーマを持って参加しましたが、現地での取材力・質問力には目を瞠るものがあり、現場で学ぶことの素晴らしさを痛感しました。複雑で困難な状況を乗り越えて希望を語る方々の言葉の力の奥深さ・豊かさ・強さを生徒達が体感した旅でした。かけがえのない機会をお与え下さった福島県観光物産交流協会始め福島県のみなさまに深く感謝申し上げます。

生徒の感想です。

『「ここで学んだことを今後自分が被災したときに生き抜くために、考えたい、生かしたい」というテーマを掲げて２日間過ごし、自分の目で耳で肌で感じることができ、正直「もう将来南海トラフが来ても大丈夫。なんなら周りの人をリードして守れる」とまで感じていました。しかし２日目のまとめ学習中に偶然起きた茨城県沖中心の震度５弱の地震で、現地では震度４だったにもかかわらず僕の体は本当に恐怖で固まってしまって何も出来ませんでした。周りでは「落ち着いて」と声をかける人がいたそうですが、それも耳に入らないほど焦っていました。頭で学んでいても、体は動きませんでした。そこで本当に身を守るためには、さらなる知識、心の余裕が必要だと思いました。これで終わるのではなく、ここからずっと災害について関心を寄せ続け、自分の地域にも置き換えて考えていきたいなと思いました。』　**上田　脩馬**

『今回の福島学宿で「人に自分の想いを伝える難しさ」というものを痛感しました。

ワークショップや意見交換の場面で、 自分の感じたことを言語化して的確に伝えることはとても難しく、修行が足りないなあ… と思いました。 今回福島に行かなかったら現状や人々の心の復興に対する思いに気がつかないままでした。今回お聞きしたこと、学んだこと、 感じたことを今度は自分が語り部になって周りの人々に広げていけるようにしたいと思います。そして将来私が東日本大震災のような震災に出会ったときに、福島で学んだ教訓を生かせるように、日頃から「もしもの時命を救う行動とは」「いざというときに協力できるようにするにはどのような社会をつくっていったらよいだろうか」などを考えて、まわりの人 たちのために熱い気持ちをもって行動できる人間になれるよう、人との関わりを大切にしていきたいと思います。貴重な体験ができた濃い濃い３日間でした！』

上川　実佑

PTA だより
vol. 107
2021.3.1（月）
滋賀県彦根市川瀬馬場町 975
滋賀県立河瀬中学校・高等学校
TEL 0749-25-2200
FAX 0749-28-2935
http://www.kawase-h.shiga-ec.ed.jp/